

学校 教育 目標	○自ら学び、人と共に、より良い明日をつくる生徒を育成します。					
	知、体		徳、公		開	
学校 概要	創立 40 周年	学校長 村山 小百合	副校長 定岡 孝治	2 学期制	幼児・児童・生徒数 186 人	
	幼稚部:	小学部:	中学部:	高等部本科: ○	専攻科:	

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力
○人とかかわる力 きく・伝える・認める ○社会人基礎力 くらす・働く・つながる

「( 3 )年間で育てる子ども像」と 具体的取組
○自ら考え、学ぶ生徒○人の話を聴き、認めながら想いや考えを伝えるを通し、人とかかわる力を高める生徒 ○日々確かに暮らすことを重ねる中で、働くこと、つながることを大切にす生徒 ・全教員がグランドデザインを意識した授業を展開することを目指し、その取組を共有する。・本校における3観点評価及び総合的な探究の時間の検討を始め。・参加型個別の指導計画の検討を行い、充実を図る。・一人ひとりの生徒の自己決定、自己実現に向け、本校ならではの多様な進路指導の在り方を探る。

中期 取組 目標	①グランドデザインに基づいた教育活動を展開し、本校にかかわる全ての人にとって優しく、分かりやすい学校を目指します。・一人ひとりの生徒の現在の姿に寄り添い、「やろうとする、やれた!」と実感できる支援・指導を重ねることで、自己有用感、自己肯定感を高めます。・自分の言葉で語ることを通して人とかわり、自分を整え、自分で決めながら学校生活を送る経験を重ねます。・生徒指導、教育相談を充実し、誰もが安心して、豊かな学校生活を送れるようにします。・入学者選抜、進路指導の充実を図ります。 ②教職員が相互に連携して、組織的な学校運営をします。・新学習指導要領を見据え、を見据え、グランドデザインに基づく教育活動を展開し、その取組を共有します。・企業、地域との連携を推進し、社会に開かれた教育課程を創造します。 その上で、◎新型コロナウイルスによる臨時休校後の対応として★誰もが安心・安全!★オール日野中央で即時対応!!★できることをできることから!!!を行動基準とし、今まで経験したことのないこのピンチをチャンスへと転換するため、これまでのルールにとらわれることなく、様々なことにチャレンジし、新たな価値を創造していきます。
----------------	---

重点取組分野	具体的取組
確かな学力	①グランドデザインに基づき、各教科等で育成を目指す資質・能力を意識した授業を行い教科横断的な教育活動を展開する。②グランドデザインの具現化に向け、全教員で取り組むための指導計画や指導案等の書式を検討する。③本校における3観点評価及び総合的な探究の時間の検討を始め。④臨時休校後の取組として、本校の教育課程に即した評価について検討を進め、内容、時期についての工夫を図る。
豊かな心	①一人ひとりがお互いに認め合い、自己有用感、自己肯定感を高め、折り合いをつける力を育む取組を推進する。②全学年でのコーチング、アンガーマネジメントの授業を継続して行う。③全教員が、スクールカウンセラー、コーディネーター、養護教諭と連携してスクールカウンセリングを充実する。④必要に応じて学校独自で臨床発達心理士の配置も検討し、実施する。
健やかな体	①自立した生活を支える基盤的能力である運動習慣・生活習慣を意識するように支援する。②生涯にわたってスポーツを楽しむ態度を育成する。③自己の存在を肯定的に受け止め自他の生、性に対する理解を深め、望ましい人間関係を築く態度や能力を育成する。④臨時休校後の取組として、特に保健体育科、家庭科でその内容の見直しを図る。
センター的機能の 取組	①4人のコーディネーターがその専門性を高めると共に互いの得意をつなぎ発信することで、事案の未然防止や地域のセンターとしての役割を果たす。②オープンスクール、公開授業研究会等の機会を活用し、本校の取組を発信する。③ホームページ等を活用し、情報発信をする。④新型コロナウイルスにより臨時休業が長引いた状況を鑑み、ホームページを充実した発信を行う。
キャリア教育	①グランドデザインに基づき、自立活動で育成を目指す資質・能力の具現化を図るため、じぶんMAP/じぶんNAVIシステムを改訂する。②進路地域支援部等と連携し、現場実習等における学びと参加型個別の指導計画等のシステムの運動を図る。
進路支援	①卒業生の定着支援を図ると共に教員の専門性を高めるため、進路を担当する教員に加え、前年度の卒業学年の教員を中心に夏季休業中等における定着支援等を推進する。②本校における多様な進路選択に対応するため、今後の本校の進路指導と教育課程について検討する。③臨時休校後の取組として、教育委員会、健康福祉局、労働局等と連携すると共に、一人ひとりの状況に応じた進路指導が展開できるよう状況に応じた様々な見直しを行う。
外部との連携	①社会に開かれた教育課程の更なる具現化を目指し、地域協働による作業学習を引き続き展開すると共に外部講師による作業学習の充実を図る。②地域のボランティア活動の在り方について検討を進める。③隣接する県立南陵高等学校との交流及び共同学習の在り方について検討を進める。④臨時休校後の取組として、今までの連携の状況を確認すると共に今後の連携の在り方について模索する。
いじめへの対応	①全職員でいじめに関する定義や学校いじめ防止基本方針を共通理解し、人権意識を高めると共に、生徒一人ひとりを大切にし、安心して過ごせる場をつくっていく。②学年、教育相談担当、保健室、管理職が情報共有をし、組織としていじめ防止に取り組んでいく。③新型コロナウイルスにより臨時休業が長引いた状況を鑑み、全教職員が意識をもった丁寧な相談活動等を行うことで、いじめの未然防止をする。
人材育成・ 組織運営 (働き方改革)	①教職員一人ひとりが組織の中での各自の役割を認識し責任をもって校務を担当すると共に、主として担当する校務に加え、横断的な視点をもった創造的なより良い学校づくりに参画する。②教職員が見通しをもって働くことができるよう、会議予定等を予め示し、計画的に仕事が進められるようにする。